

ホルモン受容体陽性乳癌に対する短期術前内分泌療法の有用性に関する 研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年5月30日 ～ 2024年12月31日

〔研究課題〕

ホルモン受容体陽性乳癌に対する短期術前内分泌療法の有用性

〔研究目的〕

手術待機期間に内分泌療法を行ったホルモン受容体陽性乳癌を対象として、臨床病理学的因子と予後との相関と短期術前内分泌療法の有用性を示します。

〔研究意義〕

術前内分泌療法による乳房温存率の向上は明らかとなっていますが、予後への関連は不明です。術前化学療法における pCR に相当する有効な予後予測因子の探索が現在の術前内分泌療法の課題です。本研究では手術待機期間に内分泌療法を施行したホルモン受容体陽性乳癌を対象として、PEPI score を含めた臨床病理学的因子と予後との相関を検討します。

〔対象・研究方法〕

2012年1月1日から2021年12月31日までにホルモン受容体陽性乳癌と診断され、術前内分泌療法を施行した患者様を対象に、診療録(術前内分泌療法の有無を含む臨床データ、画像データ、病理検査)を参照し、データを解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部 外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報に十分配慮し、匿名化を行います。対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：神野浩光 帝京大学医学部 外科学講座 教授
所属：帝京大学医学部 外科学講座 / 帝京大学医学部附属病院 外科
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表)